



新美南吉の きつねの話

に
い
み
な
ん
き
ち

おはなし劇場



演出の言葉 / ふじたあさや

キツネは、人を化かす、といわれています。キツネ以外の何かになって、人間をだますのだといわれています。ほんとうでしょうか？キツネは、人につく、ともいわれています。人の心が、キツネの心になってしまうのだそうです。ほんとうでしょうか？「うそです」といってしまうと、おもしろくないので、「そうかもしれない」ということにしておきましょう。でも、そう思うと、いろいろなお話が湧いてきます。いたずらずきのキツネの話、人を化かそうとして失敗するキツネの話……などなど。でも考えてみると、これはみんな人間が想像したことなのです。キツネの話を知ったわけではありません。キツネに化かされたというお話は、キツネに化かされたことにしたい人間のお話だし、キツネがついたというお話は、なにかをキツネのせいになりたい人間のお話なのでしょう。愛知生まれの童話作家・新美南吉さんは、キツネのお話をいくつも残しました。すてきなお話ばかりです。今日はその中から、お話を3つ選びました。聞いて、新美南吉さんの心をのそいであげてください。



原作 / 新美南吉

脚色・演出 / ふじたあさや

美術 / 倉本政典 照明 / 福井孝子

音楽 / 岡田健太郎 (オトナリ舎)

振付 / 田中りえ 切り絵 / 中矢恵子

人形美術 / 加藤典子 人形製作指導 / 松本英司

映像 / 牛嶋宏樹 衣裳協力 / 幅上ちさと

写真撮影 / 服部謙安 映像撮影 / 清水ジロー (写真映像工房サラ)

舞台監督・大道具・小道具製作 / 菅正憲



作品詳細は
こちらから

〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝4丁目131 Web サイト / <http://soranoyume.com> E-mail / info@soranoyume.com

TEL & FAX 052-773-7375 直通 090-1759-7916 (川村)



「劇団そらのゆめ」は、子どもたちが心も身体も健やかに育つ、平和な社会を願い創立した専門劇団です。「常に現代を的確に捉えながら、子どもたちの心に響く演劇創造に力を尽くす。また、演劇表現という手法を用いて、社会のあらゆる人が心豊かに生きる力を育むことに貢献する。夢や理想を描き、語り合えることを大切にしたい」を、モットーにしています。